思い出すままに

戸嶋　八千代

昭和28年岩手高校を卒業された皆様には、今年古稀を迎えましたとのこと誠におめでとうございます。

戦後新制中学が発足し公立の中学が新設されましたが、伝統ある岩手中学への志願者が大変多く、丁度その頃大勢の受験生の中から成績優秀な方々が難関を突破して入学された学年だった事が、私の衰えた記憶に今でも残って居ります。

戸嶋先生・・・といえば、皆様の脳裏に思い浮かぶことは、厳しかった、怖かった・・・とその一言に尽きると思います。確かに家庭でも厳しい父親であり厳しい夫だったかもしれません。昭和10年、岩手中学校に赴任し昭和59年3月に退職となります。その間昭和23年4月より50年10月迄寄宿舎の舎監を兼務いたしました。その中には28年卒の方も数名居られました。寮は夏休みには運動部の合宿所になりましたので、大変多忙な目まぐるしい28年間でした。昭和26年2月には寮の一部火災もございました。それから登校した後は私が各部屋を見廻ることになりました。

前後いたしましたが在職中、昭和14年5月、応召で北支へ出征となりましたが、昭和18年12月解除、復職いたしますが、6ヶ月後の昭和19年6月、再び応召になりました。二度目は広島宇品の船舶部隊に配属されましたが、原爆前転属となり熊本で終戦となり昭和20年11月復職いたしました。

退職の翌年、昭和60年11月3日に叙勲を受けましたが、最後の10年間は病魔との闘いでもありました。

私達の結婚は、昭和17年11月、一度目の北支へ出征中(1ヶ月間の休暇の際)、その頃私の居住地奉天（現中国瀋陽）での軍服姿の挙式でした。知り合ってから6年目のことでした。

一途で寂しがりや。そして厳しさと優しさに支えられた56年の付き合いでした。亡くなりましたのは丁度結婚50年目になりましたが、今年13回忌を済ませ、私も米寿を迎えました。

新5回生の皆々様、御健康で次回は喜寿の会となります様お祈り致します。

「受章の半分は妻のものです」と喜ぶ戸嶋正夫さん

▽勲五等双光旭日章
戸嶋　正夫さん(七〇)
スポーツ振興（元県ラグビーフットボール協会会長）
盛岡市中堤町20ノ43

ラグビー岩手築く

ラグビーとのなれそめは昭和三年、旧制岩手中に本県初のチームが誕生したときにさかのぼる。いわば本県ラガーメンの第一期生。以来、選手として先導者として「ラグビー岩手」を築き上げた。

昭和九年日本体育専門学校（現日体大）卒業後、母校の岩手中で教べんを執る傍ら、ラグビー普及に尽力。終戦直後の二十一年、県ラグビーフットボール協会設立に奔走した。二十二年理事長、二十七年副会長となる。四十六年から十年間会長を務めた。「好きだから、仕事だからやってこれたのでしょう。受賞の半分は妻のものです」とハチ代さん(七〇)への内助の功を認める。

四十九年に学校教育部門で、五十四年には体育功労で文部大臣表彰を受けた。五十五年には岩手日報体育賞を受賞。「スポーツには厳しさが必要。だが、互いに通じ合う愛情がなくてはならない」―。この信念が岩手のラグビーを支えてきた。昨年、岩手中・高校の教頭を退職。秋田市出身。

S.60.1.3　岩手日報の記事